



推進本部だより

カトリック広島司教区平和の使徒推進本部

2015年度広島教区年間テーマ

チャレンジ 新しい福音宣教 わたしを
— 家庭へのチャレンジ — お使いください

聖徒の交わり

11月1日は、「諸聖人の祝日」で、
11月2日は「死者の日」です。

第二バチカン公会議は、この地上の教会を「終末に向けて旅する神の民」と呼び、天上の教会と心をつなげることを呼びかけました。

「旅する人々とキリストの平和のうち眠りに就いた兄弟との一致は少しも中断されることはなく、かえって教会の不変の信仰によれば、霊的善の交換によって強められるのである」(第二バチカン公会議「教会憲章」49)「聖徒の交わり」の信仰に基づいて、聖人を崇敬し取り次ぎを願うこと、死者のために祈ることを大切にしてきました。

民俗学者の柳田国夫さんによれば、この日本列島に生活する人々は、古い昔から、人が死ねばその靈魂は裏山に登り、次第に浄められて祖霊になると自然に信じてきたそうです。

たしかに今でも、広島県の山間部では、農家の裏山に自然石の墓標がたたずんでいる光景を見かけます。死者とこの世の生活者との距離がなく、先祖の霊に見守られて、日々の生活が営まれているとの習慣的な感覚があるのではないのでしょうか。

「聖徒の交わり」の感覚が、わたしたち日本人の心の奥深いところに宿っているのかもしれませんが。

「教義の真の擁護者は、概念ではなく人間を護る人」教皇

2015年10月4日～25日まで開催された世界代表司教会議第14回通常総会(シノドス、テーマ「教会と現代世界における家庭の召命と使命」)が閉会した。閉会前の全体会議での教皇講話についてバチカン放送局の記事を紹介する。

教皇はこの司教会議が、福音を死んだ石に変え、他人に投げつけようとする人々とは反対に、福音が教会にとって永遠に新しい生きた泉であることを証しし、教会の教えの裏にしばしば隠れた閉ざされた心を脱ぎ捨てる機会にもなったと指摘。

教会は「心の貧しい人々」、赦しを乞い求める罪びとたちの教会であり、義人や聖人だけの教会ではない。むしろ自分たちの貧しさ、罪深さを認識することで、教会は義人と聖人のものとなると説かれた。

会議は相対主義や、他人を悪魔化する危険に陥ることなく、「すべての人々が救われること」(1テモテ 2,4)だけを望まれる神の優しさといつくしみを勇気をもっていっばいに抱きしめることを求め、これから訪れる「いづくしみの特別聖年」に備えることができたこと教皇は話された。

シノドスの体験は、教義の真の擁護者は、文面ではなく精神を護

る人、概念ではなく人間を護る人であることに気づかせてくれたと述べた教皇は、それは原則や神の掟の大切さを矮小化することではなく、真の神の偉大さ、その無限のいつくしみの寛大さを高揚することであったと強調。

わたしたちは、「放蕩息子」のたとえにおける兄(ルカ 15, 25-32)や、「ぶどう園の労働者」のたとえでの不平を言う労働者(マタイ 20, 1-16)のようになりがちな誘惑を常に断たなければならないと注意を促された。

最後に、教皇フランシスコは、前任の3人の教皇に言及。パウロ6世の「神は、キリストにおいて、限りない善良さを啓示される」、ヨハネ・パウロ2世の「神のいつくしみを信じ、宣言し、救い主のいつくしみの源に人々を近づける時、教会は真にその命を生きる」、そしてベネディクト16世の「いつくしみは、実際、福音のメッセージの中心です。いつくしみ、それは神ご自身の名前です」という言葉を思い起こされた。

(バチカン放送局2015年10月26日記事)

主な教会暦(主日を除く)

11月01日	諸聖人(祭日)
11月02日	死者の日
11月07日	ラテラン教会の献堂(祝日)
11月15日	家族大会(広島地区)
11月22日	王であるキリスト(祭日)
11月29日	待降節第1主日
11月30日	聖アンデレ使徒(祝日)



(ホームページ)